

[illegible]

Overfull (規定の枠内からはみ出して文字を書くこと)してはならない．本文中や参考文献で長いURLなどを書き入れると、`http://www.sample.url.xx.yyy/`のように Overfull が発生することがある．必ず仕上がりを確認し、このようなことが起きないように文章を調整する．はみ出した部分については編集者において削除することがある．

## 2.2 表題, 著者名, 概要

和文タイトルを`\title{}`に書く. 英文タイトルを`\etitle{}` と`\journalhead{}`の 両方に 書く. `\journalhead{}`に書かれた英文タイトルは3 ページ目以降の奇数ページのヘッダ (ハシラ) として現れる.

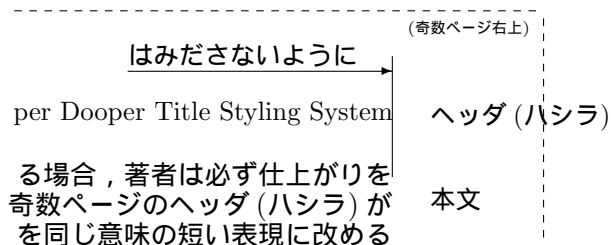


図 1. ヘッダの例

カメラレディ原稿を作成する場合, 著者は必ず仕上がりを確認する. 3 ページ以上の原稿については, 3 ページ目以降の奇数ページのヘッダ (ハシラ) がページ幅を越えないようにする (図1). 越えそうな場合には著者において`\journalhead{}`中に書く英文タイトルを同じ意味の短い表現に改めること. おおまかな目安は15ワード程度である. ヘッダ (ハシラ) は途中で改行してはならない. また, `\journalhead{}`の中を空にしてはならない. なお, ページ番号はページ下部中央に書き込まれる.

和文による著者名は`\author{}`の中にこの論文例のように書く. 著者の英文綴りと和文所属は, この論文例に倣い`\author{}`の中の`\affil{}`に一括して書く. 英文によるアブストラクト (論文概要) を`\begin{abstract}`と`\end{abstract}`の間に200ワード程度で書く.

## 2.3 本文

`\section{}`, `\subsection{}`など, スタイルクラスで用意されている章立てを用いながら, 通常の $\text{\LaTeX}$  2 $\epsilon$  文書執筆の要領で書く.

図表は, 査読用投稿の場合には査読者が十分読みとれるよう配慮する. カメラレディ原稿は提出したものがそのまま印刷, 出版されるので, 十分な画質があるように著者において出力すること. なお, 写真などもすべて原稿中に組み込んで出力すること.

## 2.4 謝辞, 参考文献

謝辞は必要な場合にだけ書く.

参考文献はJBIB $\text{\LaTeX}$  を用いて文献データベースから自動生成することを強く推奨する. 文献スタイルは`jwiss`を使う. 手書きで作成する場合には, 文末の例のように著者名, 論文名, 所収冊子名 (英文の場合には斜体), ページ番号, 発行年の順で書く. 英文で著者名を書く場合には, 名 (first name) のイニシャル, 姓 (last name) の順に書く. 共著者が多



図 2. 図面の例

い場合には「et al.」で省略してもよい. なお, 参考文献に URL を指定する場合には, そのページが存在していることを投稿前に必ずもう一度確認すること. 本論文集は出版物になるので, ニュース記事のように短い期間で URL が変更されたりページ自体が消滅する恐れのある Web ページは参考文献として好ましくない.

## 3 論文作成の例

`\section{論文作成の例}`と書くと上のように表示される.

### 3.1 図表挿入の例

`\subsection{図表挿入の例}`と書くと上のように表示される.

#### 3.1.1 表の例

`\subsubsection{表の例}`と書くと上のように表示される. 表 1 は表の例である.

表 1. 食欲を満たす方法と特徴.

	値段	スピード
高級料亭	高い	遅い
ファミリーレストラン	中ぐらい	中ぐらい
ファーストフード	安い	早い

### 図の例

`\subsubsection*{図の例}`と書くと上のように表示される. アスタリスク (\*) をつけたことにより番号が表示されない. 図 2 は論文中に図面を挿入した例である.

図 3 は, 2 段抜きの図の例である. 2 段抜きの図を挿入するときには, `\begin{figure}`の代わりに`\begin{figure*}`とし, `\end{figure*}`で終わる

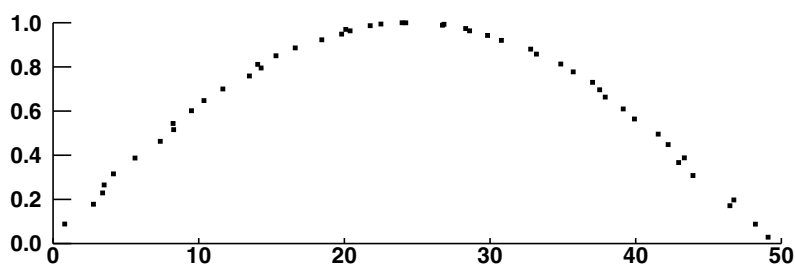


図 3. グラフの例

ようにすればよい．同様に table についても\*をつけることで 2 段抜きにできる．

ただし 2 段抜きの図や表は， $\text{\LaTeX}$  によって別のページに移動して張り付けられてしまうことが多いので注意が必要である．

カメラレディ原稿を作成する場合，著者は必ず仕上がりを確認し，図が鮮明に出力されることを確認する．特に，次の 2 点に留意すること．

- 画面キャプチャした画像を使って図を作る際，非可逆圧縮を使わないこと．画面キャプチャした画像をファイルに保存する場合には，保存形式として非圧縮形式 (BMP 等) または可逆圧縮形式 (GIF, PNG 等) を用いる．
- 図に文字を使って注釈を書き込む場合，極力，アウトラインデータの文字を用いること．ビットマップデータの文字を用いた場合，文字の輪郭がギザギザに見える．

### 3.2 数式の例

`\subsection{数式の例}`と書くと上のように表示される．

式 (1) は数式の例である．

$$\sum_{n=1}^N n = \frac{1}{2}N(N+1) \quad (1)$$

## 4 まとめ

このサンプルは次の環境を用いて動作を確認した．

- UNIX 用の  $\text{\LaTeX}$  2 $\epsilon$ ( $\text{\pTeX}$ 3.1.2)
- Windows 用の  $\text{\LaTeX}$  2 $\epsilon$ ( $\text{\pTeX}$ 3.1.3)

本スタイルシートが著者諸氏の論文作成に役立つことを期待する．

## 謝辞

謝辞があればこの章に書く．特になければ「謝辞」の章はなくてもよい．

## 参考文献

- [1] WISS ホームページ. <http://www.wiss.org/>.
- [2] H. Aoki, B. Schiele, and A. Pentland. Realtime Personal Positioning System for Wearable Computers. In *Proceedings of the 3rd IEEE International Symposium on Wearable Computers*, pp. 37–43, 1999.
- [3] 暦本 純一. まえがき : WISS2000 について. *インタラクティブシステムとソフトウェア VIII*, pp. i–ii. 近代科学社, 2000.